

[人間とエルフの和合学園]

本学園に在籍するエルフは、ほとんどが自然状態から生け捕りにされたばかりの[女神]状態のエルフである。人間たちは[女神]状態のエルフたちに人間とエルフの種族平等を語り、本校への入学を誘う。

しかし、それは彼女たちを[家畜]化する第一歩である。エルフたちを最初の入学時から[種族減点]によって、どんな試験も人間よりうまくできない。100点満点の試験に、エルフは種族「感」の減点である-101点が付与されるからだ。

エルフたちは入学後、試験を受けた翌日、すぐに[特別教育生]の身分が与えられる。以下はエルフたちに自分が「特別教育生」であることを通知し、彼女たちに与えられる事実上の最初の授業である。

[エルフについて - 1]

身長は平均的に140cm程度、大きいと160cm程度である。

比率は6等身から7等身である。

胸囲は平均95-100cm程度で、それが体重の大半を占める。ただし、身体の体重は40kg程度とかなり軽い。身体を構成する構造自体が「女神」としての何かで構成されているからである。

エルフ[女神]の神聖な力は、彼女たちの起源となる[祈り]の内容によって形と強さが変わる。祈りが他人や他の集団に対する攻撃を願うものであった場合、エルフ[女神]の神聖力は強力な攻撃性を帯びる。通常、反抗心の強いエルフ[家畜]がこのような場合である。国家の[エルフ管理局]は、エルフを制圧する際、このようなエルフを警戒1位とする。

講堂には重厚な体格の男性教師と、その後ろで厳粛に観客席を見つめる学生委員が立っている。彼らが見つめる視線の先、講堂の観客席には、数多くのエルフ特別教育生が[基本姿勢]-両手を頭の後ろに置き、脇の下を丸見えにして、膝をついたまま股間を広げた姿勢をとり、恥ずかしそうに目を細めている。

エルフの上半身はセーラー服を着ているが、胸の上の鎖骨まで折り上げられている。【ドレスコード】により、エルフには乳房はもちろん乳輪まで露出しなければならない義務があるからだ。彼女たちの露出した身体は、すでに何時間も続いた「特待生の気合」によって汗だくなっている。エルフたちの小柄で可憐な顔立ちに比べ、大きな胸はマイクロビキニ、スリングショットビキニ、ハートステッカーなどで乳首だけがかるうじて覆われている程度。

下半身は学生らしいスカートを履いているようだが、スカートは2cm弱で彼女たちの広い骨盤にギリギリかかっている。その下に視線を移すと、ピンク色のオマンコが、白いティーパンか、ステッカーでかろうじて隠されている。エルフたちのお尻は、彼女たちにとって慣れないお尻の体罰でパンパンに腫れている状態で、お尻がいかに大きいか、正面から見てもオマンコの下にお尻の窪みが見えるほどだった。

【基本姿勢】の最中にも、エルフ特別教育生の後ろには何人かの監督役の人間学生がいて、姿勢が悪かったり、表情が反抗的な教育生の頬を叩いたり、乳首を180度つまんでひねったりする。講堂はエルフたちのうめき声とともに、破裂音とエルフ少女たちの悲鳴が不吉なハーモニーを奏でる。

トゥク、トゥク。

静寂を呼び覚ますマイクを手にした後、講堂の前の男の先生が説明を始める。

「うーん、うーん!

お前ら【特別教育生】は、成績最下位の劣等生のことだ。

かなり頭の悪い奴らだな?"

くすくす笑う学生委員たち。

何人かのエルフたちは目を輝かせるが、先生の後ろにいる生徒委員たちがすぐに気づくと、エルフたちはすぐに目を伏せ、息を荒くする。

"...統計上、我が国の全ての【学園】内の特待生は100%の割合でエルフ種族の女子生徒である。しかし、種族と男女平等を尊重する【学園】なので、「エルフ」とは呼ばず、「特別教育生」と呼んでいる。これは私たち"人間"の生徒もよく覚えておいてね!"

自然状態の[女神]エルフが学園に入学する際、[平等]を謳う学園の誘惑をほとんど知らないまま、強制的に引きずり込まれることが多い。特に文明が発達した社会であればなおさらだ。しかし、入学するまで素直に騙されたエルフもいるが、上記の話を聞いて初めてそれが欺瞞であったことを理解し、納得する。

「では、【特別教育生】としてのルールやマナーについて...

「確かみんな平等な学園って言ってたじゃないですか! ?

「成績がマイナスになるのはおかしいよ!」。

先生が意味不明な不平等ルールを説明し始める中、自分の状態を把握していない一部のエルフたちが、屈辱

降伏[謝罪]を聞いて初めて[家畜輸送法]を降ろす男子生徒。床に倒れて泣き叫ぶ特別教育生。周囲のエルフたちも恐怖に抵抗感と自尊心を失う。

「おい、家畜。違うだろ、特別教育生。[基本姿勢2番]」

"はい、四つ！"

先ほどまで高飛車だった少女は、すぐに膝をついてお辞儀をする。上半身を地面に平らにして、お尻を教育してくれる方、男子生徒に向かって行うのが「基本姿勢2番」だ。

小柄な肩の間から大きな胸が床にべたんこになると、床には少しずつ母乳が出てくる。男子生徒向きに必死に突き上げたお尻はパンパンに膨れ上がり、「家畜輸送」によりパンティーはオマンコを完全に食らってしまった。

"官能的な声明"

土下座をしたままオマンコを飲み込んだパンティーを、お尻を左右に揺らしながらやっとの思いで下ろし、肛門を大きく開く。パンパンに膨らんだお尻をエルフ自身がつまんでいるようで、今にも官能的な姿勢を崩してしまいそうで不安だ。

「21376番エルフ.....リニャです！」。

"姿勢を崩さないで"

"うん！"

"我慢して"

うっ！、ううう。

糸で繋がった20cmの長さ数十個のアナルビーズの束が、特別教育生リニャの肛門に一つずつぎりぎり入る。肛門をくねらせながらアナルビーズが少しずつ出ようとする

ギョッ!

"アナルに気合入れろ!"

「ヒャッハー...。はい...」。

男子生徒は特別教育生をスパニングしてアナルを硬直させ、親指でビーズを再びアナルに押し込む。

エルフの立場で長い長いアナルビーズの終着点には旗がかかっていて、その旗の片面にはエルフを象徴する模様が描かれていて、反対側には「反省中」と書かれている。アナルビーズを全部差し込むと、アナルが上の旗を掴んでいるおかしな[恥ずべき]姿になる。これが「降参」したエルフに与えられる「旗体罰」である。



"旗を上げろ"

"....フフツ!"

リニヤは少し躊躇った後、肛門に力を入れる。ピンク色の肛門がブルブルと震えながら旗を持ち上げると、旗が勢いよく上に上がる。旗に書かれた「反省中」の文字がエルフのお尻の上ではためく。

"下ろせ"

"ふっ"

アナルに少し力を抜くと、最後の段のアナルビーズが少し出てきて旗が下に下がる。エルフ柄の旗が肛門から絶望的に下がり、オマンコに触れる。

"誰がビーズまで抜けて言ったんだよ、[処分]する?"

「あ、違います！ ごめんなさい

"もう一度旗を上げて。"

「ふっふっふっふっふ!

「旗を下ろせ

「ふう...

「それでは、【特別教育生】として学院で守るべき規律と礼儀作法について紹介しよう。お手本となる2年生の特別教育生、ハンナ、上がって来い！」。

"おい、ついてこい"

"...はい♡"

講堂の近くで学生委員と一緒に【基本姿勢】をとっていた黒髪のエルフが目立つ。服装は周りの特別教育生と同じだが、お尻に「学園マーク」が刻印されていた。乳首が一行に束ねられ、学生委員の片手に引っ張られるのだが、これを「乳紐」と呼ぶ。

生徒委員が軽く乳輪を引くと、ハンナの乳首からは露のような母乳が少しずつ結ばれ、周囲100cm以上の大きな乳房に少しずつ垂れていく。

「ふう.....ふう.....ふう.....吸う.....。

パクッ！パクッ！パクッ

犬の鎖より酷い、「乳輪」に縛られた特別教育生【家畜】らしく、ひたすら膝と肘で地面を哀れそうに這うハンナ。それは学園国家の【エルフの歩行法】だった。床には乳輪で刺激された母乳が少しずつ自分の行く痕跡を残し、極めて非効率的な「歩行」にへこへこしながら、ハンナは尻餅をついている。



"特別教育生。チャキツ"

"車、しっかり♡"

ハンナは【基本姿勢2番】、お尻を人間先生と生徒に向けたまま土下座をした後、両手でお尻を広げて肛門を大きく開く。数本の手のひらの跡と、黒い学園のマークが刻印されたお尻は講堂の照明に照らされ、ピンク色の肛門の間からは少し小さな線がはみ出した。

それが特別教育生にとって"キリツ"であることを直感した新入生たちは、基本姿勢から冷や汗をかく。[旗体罰中のリニャはまだアナルで旗と戦っているのですんなり余裕はないだろうが。

"特待生。先生と先導部員に敬礼！"

"こんにちわ-----っ♡♡♡"

ドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロドロ

ポンポンポンポンポンポンポンポン!

ハンナが高いトーンで「敬礼」の挨拶をすると、ハンナの肛門から紐に繋がった大きな玉が数個飛び出した。

デグル...トゥク、トゥク。

漿液が付着したそれぞれの玉には、エルフの紋章、学園の紋章、ハンナの識別番号と最終成績などが書かれていた。

か、敬礼...？あれは...？

あんな大きな玉が常時出入りするの...？

心の中で騒ぐ新入生特別教育生たち。

"熱中しなさい"

"하야하야. 열중.셔.♡"

はしゃぐ肛門穴に、杏奈は【敬礼】で出てきたビーズを、ドゲザしたまま再び肛門にぐいぐい押し込んだ。

「はっ...ふっ...ふっ...ふっ...」。

入れてる最中も肛門は「敬礼」による後遺症で痙攣し続け、また半端なく出たり入ったりしていた。

その度に乳首を握っていた学生委員は-

ぎゃああ

"試演中も[学習の穴]を取り締まらなかったらどうする!"

"ヒュッ！ ご、ごめんなさい..."

お尻を叩きながら叱られる。お尻を熱帯程度に叩かれてから、ハンナの玉を元の位置に戻し、ようやく【熱中休止】・二本足で講堂に立つことを許される。

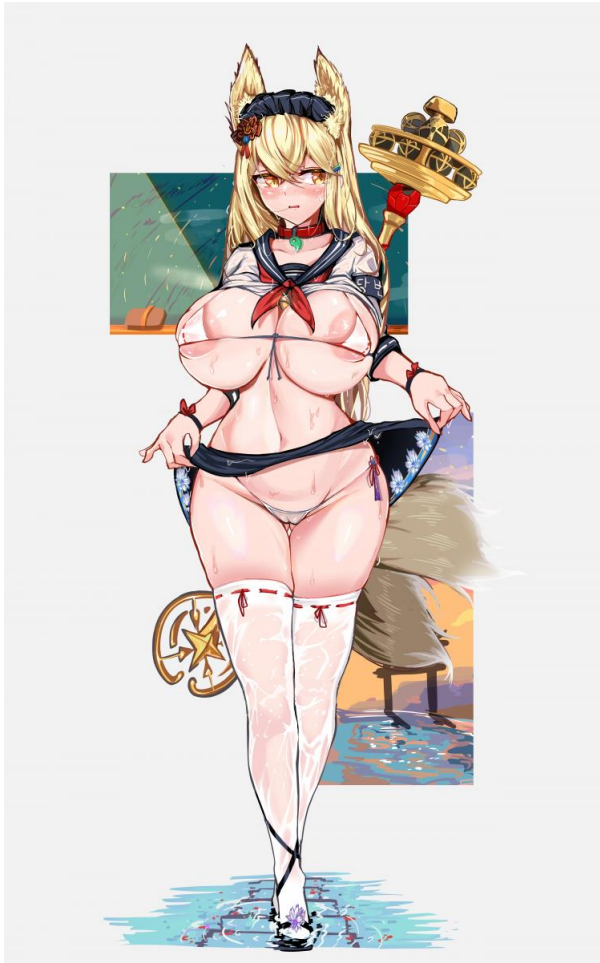
エルフにしては160cmほどで7等身の大きな身長、黒髪、鋭くはない鼻筋に優しげで伏し目がちな瞳、

[ドレスコードを守った制服から見える100～110cmの大きな胸と、

白いマイクロビキニからはみ出したピンク色の乳輪、

2cm丈の模範的なスカートで腰を少し隠した後、

再びオマンコがぎゅっと食い込んだ白いマイクロパンティーで「特訓生の風紀」をきちんと守ったエルフ、ハンナの姿が現れる。



// このキャラクターはエルフじゃないんですけど、ちょうどこんな感じの服装です〜 // //】。

"みんな、特殊教育生代表のハンナが模範的に敬礼する姿、よく見たか？"

馬鹿馬鹿しい光景に「模範的」という修辭が付くと、講堂の上に立っている人間たちは笑い、講堂の反対側にいる家畜たちはまたもや唾を飲み込むしかなかった。

「これから、ハンナが諸特殊教育生が守るべき規範を実演するのだから、しっかり見て実践するのだ。新入生特殊教育生の皆さんが規範を守れなかったら、皆さんだけでなく、ここにいるハンナも連帯責任でお尻を叩かれる可能性がある。わかったか？

一瞬の静寂。리나의 [깃발 체벌 소리만 펄럭 펄럭 거리며 그 사이에 조금씩 있을 뿐이었다

ピクッ

"...わかったか！ おっばい牛のような雌犬ども！"

おとなしくしていた先生が、激しいマイクの音と共に一瞬本性を現す。

いくら【特別教育生】と銘打っているとはいえ、人間の質問にエルフ[家畜]が答えないのは、人間社会の彼にとってあまりにも大きな不敬であったからだ。

それは犬が敢えて飼い主に頭を下げないのと同レベルのものだった。

"はい、はいへ"

基本姿勢で震えている特別教育生が怯えた声で答える。

「うーん、うーん、じゃあハンナ。【特別教育生】規範について、一つずつ実演してください。

「わかりました♡」。

例外的に少しだけ首輪を外したまま、新入生特別教育生の前に立つハンナ。

「う、まず一つ目。【挨拶の作法】です...♡」。

" 特別教育生は...人間の生徒と先生と向き合うときは

お尻で名前を書かなければなりません...♡"

"この、こうして"

ハンナは振り返り、両手を膝に当てた後、腰を曲げて大きなお尻をみんなに見せる。

" お尻を出会った人間様によく見える方向に。突き出すんです...♡」。

その後...お尻だけを揺らして...♡"

お尻を上下左右に揺らす杏奈。肛門穴のアナルピースの先端が下品にガラガラと上下に動く。

"自分の識別番号と...名前をしっかりと書いてください...♡

この時...生徒指導部所属の先生と男子生徒さんが向かい合った場合..."

白いマイクロショーツを下ろすハンナ。オマンコに食い込むほどサイズが小さく、下ろす際にも腰を左右に何度も振らなければならず、オマンコの下の太ももまで下ろすと、パンティーの紐は太い太ももに食い込み、半分肉の中に埋もれてしまった。

"対面するときにはもっと丁寧に...♡」。

パンティーは太ももまで下げて。オマンコまで見えるようにした後

お尻の挨拶をしなければなりません。

このように...お尻で名前を書く時は

もちろん私たち特別教育生の身分がわかるように...

お尻を人間の鼠径部の方向に。最大限突き出してね...♡。

トボトボと私に与えられたエルフの番号と名前を。書かなければなりません。

ぐずぐずして挨拶がうまくできなかつたり。

挨拶するのを忘れた場合

先ほどの私のようにお尻を50回以下で叩かれたり...♡。

アナルを30分以下で叩かれることがあります♡..."

説明しながら何度も。371番Hanna]をお尻で何度も書くハンナ。しなやかなお尻の動きが【特別研修生代表】らしかった。

そうなるまでに、ハンナは学園のマークが押されたそのお尻をどれだけいじめられたのだろう。

...

[特別教育生の身分証明書]

特別教育生には、大きなビーズが5個束ねられたアナビーズが「身分証明書」として提供される。それぞれの5つのビーズには、エルフの模様、学院の特別教育生のシンボル模様、エルフ識別番号、名前、試験点数が書かれている。

特別教育生は必ずこの[特別教育生身分証]を着用しなければならない。[身分証]の着用はもちろん、肛門にそれを入れることで認められる。

特別教育生は普段は「挨拶の作法」、お尻で名前を書くことで挨拶をするが、ハンナのように格式ある場にいる特別教育生なら、正座・敬礼、そして熱中し、身分証を出し入れする過程を観客に見せなければならない。

[特別教育生身分証明書]は、いつでも人間の教師及び生徒であれば、不意に肛門から取り出して確認することができ、[身分証明書]を持っていないことを確認した場合、直ちに200回以下のお尻の体罰の後、校門の前で5時間以下の[旗の体罰]を履行することができる。

[一般生徒]

人間の生徒は種族加点によって必ずエルフの生徒より高い点数が出るため、特別教育生になる可能性すらな

い。カリキュラムには特別教育生を教育し、担当管理する過程がある。通常1年生の時には、「特別教育生体罰法」を週に2時間教育する。エルフのお尻の体罰は、説明したように彼女たちの神聖力の牽制に不可欠なことだからだ。2年生時には、エルフが恥を感じるような様々な罰を、「特別教育生躰法」を受講して教える。3年生では最終的に上記のように学生委員となり、反抗的な新入生特別教育生を「家畜」に落とす作業に参加することになる。

これにより、「人間・エルフ和合学園」は、人間の生徒がエルフの生徒と「和合」する方法を指し示し、さらに社会でもいつでも「和合」できるように導くのである。

"はぁ...はぁ...ホット"

特別研修生代表として、妖艶な腰の動きで自分の識別番号と名前をお尻で書くハンナ。素晴らしい「お尻の挨拶」だが、先ほどの「敬礼」のせいか、肛門の「身分証」の先が少し危うく抜けそうだった。

"おい、ケツ締めろよ。ここで失敗したらわかるだろ？

それに気づき、小さな声で警告する学生委員。

"ふうん...ふうん！ □ ごめんなさい。"

ハンナは軽く括約筋を締めて、身分証明書が飛び出さないようにした。

[敬礼]以外の場面で、特別教育生が肛門を締められずに「身分証」を勝手に取り出すことは、特別教育生の身分に対する反抗と見なされるため、お尻の体罰200台レベルの大過失である。しかも、今のような特別教育生の試練の最中に肛門を締められないということは、特別教育生[家畜]としての基本が欠落している姿を見せることになるので、懲罰室以上の罰を受ける可能性もあった。

トウクトウク

学生委員がハンナのお尻を軽く叩きながら、

"お尻"

と言うと、ハンナはすぐにパンティーを太ももまで下ろし、膝に手を置いてお尻を出し、後ろを向いて生徒委員を見た。

"教育を受ける[お尻の体罰]準備できました□"

一連の流れは2秒程度で非常に巧妙かつスピーディーに行われ、かなりの訓練を積んだ様子だった。それが訓練が必要なほど意味のある行為なのかは分からないが。

ハンナはその後、新入生特別教育生に説明を行う。

"こうして。先生や生徒がお尻を軽く叩くと....。

素早くお尻を出す必要があります...□。

パンティーは基本的には脱がないのですが....。

男性の先生や、学生委員の方が教育される場合は。

オマンコまで見えるように下ろすのが原則です(□)

また、お尻は...叩かれやすいように...また、一般の生徒さんが見やすいように....。

人が多い方向に...手を差し伸べた後□。

叩く方の鼠径部の高さまでお尻を上げながら。

頭を振り返って叩く方を尊敬しなければなりません□"

"ハンナ、何を間違えたらお尻を叩かれるか知ってる？"

決められた台本を口ずさむような学生委員。

"ネエッ□！特別教育生のテーマで学生の近くに立っていたからです！□"

特別教育生は、一般生徒の学業の妨げにならないように「エルフ歩行法」を取らなければならない。
。「エルフ歩行法」とは、特別教育生の移動歩行法で、肘と膝だけを使って床を這うが、腰だけ持ち上げていつでも[教育]を受けることができるように準備することだ。

特待生ハンナは、特待生というテーマであえて私たち学生委員の隣に対等な立場で立っていたので、私たち学生委員にお尻を30発殴られた後、「お尻サイン」をもらうことにする。”

なんだ、そんな理由があるのか。

ただ好きなように殴るってことでしょ。

とんでもない体罰の理由に戸惑う新入生特別教育生たち。しかし、まだ肛門を締めたり緩めたりされる気合を入れられているリニャの横で、「基本姿勢」を解く勇気が出ない。

「このように体罰[教育]を受ける前に、特別教育生自身がお尻を叩く理由を答えられるようにすること。知らなければ、体罰の回数は倍増する。

じゃあハンナ、ここにいる学生委員にお尻を一発ずつ叩かれるように”

”はい□”